

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスMIXED JUICE					公表日	令和8年1月31日
	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			身体を動かして遊ぶエリア、座って遊ぶエリアを分け、安全に過ごせるよう配慮している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			児童10名に対し、指導員2名、児発管1名の計3名の配置が義務付けられているが、5名は配置できるよう配慮している。	スタッフの病欠等で4名になる日もある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7			屋外スロープあり。車イス用トイレあり。室内は完全フラット化されている。		
	4	生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			明確に区切られた個室スペースはなく、音漏れなどはあるが、必要に応じてクールダウンや周りの騒音を遮断できるよう配慮を行った配置を行っている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7			ケース会議を実施し、課題や支援方法、療育案などを議論し、共有に務めている。	パートタイム社員が会議に参加できないことがある。不参加者には後日会議録の共有を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4	1		第三者による外部評価は受けていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			虐待防止研修や感染症予防研修を実施しているほか、外部研修などにもそれぞれ参加している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			月に1回療育会議を開催し、療育内容や目的を共有している。予定表は利用者にも配布している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			保護者との面談や、スタッフとの話し合いを基にアセスメントやモニタリングを行った上で計画作成を行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			ケース会議にて、各児童へのアプローチ方法などを話し合い、共有した上で支援に臨んでいる。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		1	アセスメントシートを使用し、計画期間中の変化や成長、生活における課題などを記入し、計画作成につなげている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			東京都の様式に基づき、各項目の課題設定を行っている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			月に1回療育会議を開催し、スタッフがそれぞれ療育案を出し、共有している。	パートタイム社員が会議に参加できないことがある。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			季節に合った活動やお出かけを行ったり、同じ活動でも児童の課題や能力により手法を変えるなど、固定化しないよう心がけている。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7					

適切な支援の提供	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			朝礼や午前中の児童が来所する前などに状況の確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	2	1	その日あったことをスタッフ間で話し合うなどしている。	終礼などの明確な振り返りの時間はない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7				
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		1	アセスメント、モニタリング、ケース会議の過程を経て、支援目標を設定している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5		2	「日常生活の充実と自立支援のための活動」「多様な遊びや体験活動」に軸を置きつつ、「地域交流の活動」「子どもが主体的に参画できる活動」も組み合わせさせて支援を行っている。	「地域交流の活動」に関してはあまり行っていない。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	7				
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		1	児童発達支援管理責任者が参加。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1		下校時間確認は保護者を通して行われることが多い。	下校時間の転記ミスのあるため、2名以上で時間の確認を行っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2	1	以前通っていた放課後等デイサービスから、情報提供を受けたことがある。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		2	就労移行期の児童の卒業実績がまだない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	3	1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	1	公園で地域の児童と交流することはある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	4	2		参加実績なし。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			送迎時にその日の様子や出来事を報告している。また、定期的に面談を行い、成長や課題、保護者からの要望を共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	1	送迎時などに相談を受け、対応することはある。	外部で行っているペアレントトレーニング研修の情報を提供することはある。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			契約時に対面で説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			契約時や面談時に要望等の確認を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			契約時に対面で説明を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			年に1回は保護者との面談を行えるよう調整を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	5	1	保護者会は実施したことがない。	今のところ実施予定なし。要望が多ければ実施を検討する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			苦情があった場合は速やかに共有し、再発防止策を議論している。	

保護者への説明等	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7			月間のおたよりや、Instagramでの発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			個人情報は鍵付書庫に保管。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3	1		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			スタッフは入社時に各マニュアルを読み合わせ、確認を行っている。保護者向けにはホームページにマニュアルを公開している。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			各種策定済み。避難訓練も年に2回は行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			契約時に確認。特にてんかんやアレルギー等の重大事故につながるものは、対応等も書面に記入していただいている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			医師からの指導内容を伺ったり、服薬に関する書類を提出していただくことがある。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			計画策定済み。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		1		周知はあまりできていない。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7				
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		1	年に1回虐待防止研修を開催。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		1	身体拘束適正化に関する研修を虐待防止研修と同時に開催している。		